

## 主題：ローマ人への手紙第5章から第8章——聖書の核心

メッセージ 10

性情の聖別の過程はわたしたちを美しくするための有機的な救いの過程であり、それはキリストのための聖い栄光の花嫁とならせます

聖書：ローマ6:19, 22. エペソ5:25-27. 啓19:7-9. I テサロニケ5:23. 雅8:13-14

- I. 神のみこころはわたしたちの聖別です。聖別されるとは、聖くされること、すなわち、神へと分離され、聖なる方、すなわち、すべての俗なものとは異なり区別されている方である神に浸透されることです——I テサロニケ4:3前半. I ペテロ1:15-16. エペソ1:4-5. 5:25-27。
- II. 聖書には聖別の三つの面があります：
  - A. その霊が神の選ばれた民を求めることにおける聖別があり、彼らが悔い改めて信じる前のものです——I ペテロ1:2. 参照、ルカ15:8-10。
  - B. 地位上の聖別があり、それはキリストの血による、信者が信じた時のものです——ヘブル13:12. 9:13-14. 10:29. 参照、ルカ15:4-7。
  - C. その霊の性情の聖別があり、それは信者たちのクリスチャン生活の全行程におけるものです——I テサロニケ5:23-24. ローマ15:16後半. 6:19, 22. 参照、ルカ15:11-32. ローマ5:10. 啓22:14. II ペテロ1:4。
- III. エペソ書第5章25節から27節は、三つの段階においてキリストをわたしたちに提示する、神の全体的な救い全体を啓示しています：
  - A. 過去、贖い主であるキリストは、わたしたちの法理的な贖いのために、ご自身を召会のためにささげました——「夫たちよ、キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられたように、あなたがたの妻を愛しなさい」——25節。
  - B. 現在、命を与える霊であるキリストは、彼の要素を召会に浸透させることによって召会を性情において聖別していますが、それは召会が彼の配偶となるためです。これは、花嫁を美しくし、花嫁を用意するための有機的な救いです——「それはキリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるためです [す]」——26節。
  - C. 将来、花婿であるキリストは、彼の満足のために、彼の配偶である召会を彼ご自身にささげます——「またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです」——これが花嫁を用意するための栄光化です——27節。
  - D. 過去、キリストはご自身を召会のためにささげました。現在、彼は召会を聖別しています。将来、彼は彼の満足のために、彼の配偶である召会を彼ご自身にささげます。したがって、彼が召会を愛することは召会を聖別することであり、彼が召会を聖別することは栄光の召会を彼ご自身にささげるためです。
- IV. 主の回復における主要な働きは、彼の花嫁を用意する真正な働きです。エペソ書第5

章26節で語られている絶え間ない性情の聖別なしには、花嫁が用意される道はなく、したがって、啓示録第19章7節から9節が成就される道もありません。地位上の聖別の過程は（I テサロニケ5:23-24）、わたしたちの有機的な救いの過程であり、それはわたしたちが美しくされて、キリストの美しくて聖い栄光の花嫁となるためです：

- A. 命を与える霊であるキリストは、言葉の中の水の洗いによって召会を清めることによって召会を聖化します。神聖な観念によれば、ここの「水」は流れる水によって予表される神の流れる命を指します（出17:6. I コリント10:4. ヨハネ7:37-39. 啓7:17. 21:6. 22:1,17）。わたしたちは今そのような洗う過程の中にいますが、それは召会が聖くて傷のないものとなるためです。
- B. エペソ書第5章26節の「洗い」のギリシャ語は、文字どおりには「洗盤」です。旧約の祭司たちは洗盤を使って彼らの地上の汚れを洗い落としました（出30:18-21）。日ごとに、朝に夕に、わたしたちは聖書に来て、言葉の中の水の洗盤によって清められる必要があります。
- C. パウロは洗う過程を伴う言葉に言及する時、「レーマ」というギリシャ語を用いています（エペソ5:26）。ロゴスは聖書に記録されている客観的な神の言であり、レーマは特定の場面でわたしたちに語られる神の言葉です（マルコ14:72. ルカ1:35-38. 5:5. 24:1-8）。
- D. 命を与える霊であるキリストは語る霊です。彼が語ることは何であれ、わたしたちを洗う言葉です。これは、恒常的な言葉であるロゴスを指すのではなく、即時的な言葉であるレーマ、すなわち主が現在わたしたちに語っている言葉を指します——マタイ4:4. ヨハネ6:63. 啓2:7. 22:17前半. 参照、イザヤ6:9-10. マタイ13:14-15. 使徒28:25-31。
- E. レーマは、わたしたちにとって個人的で直接的なものを啓示しています。それは、わたしたちが何を対処する必要がある、何から清められる必要があるのかを示しています（青銅の洗盤は鏡であり、映し、あらわにすることができました——出38:8）。わたしたち一人一人にとって重要なことは、このことです。すなわち、神は今日わたしに彼の言葉を語っていますか？
- F. わたしたちがいつも大切にしている一つの事は、主が今日もなお、わたしたちに個人的に、直接的に語っているということです。命における真の成長は、わたしたちが直接神から言葉を受けることにかかっています。わたしたちの中での彼の語りかけだけが真の霊的価値を持っています——ヘブル3:7-11, 15. 4:7. 詩95:7-8。
- G. わたしたちの祈りの中心点は、わたしたちが主の語りかけを切望することであるべきであり、それが、わたしたちに彼の心の願いにしたがった彼の永遠のエコノミーの目標（すなわち、彼の配偶である花嫁を得ること）を成就することができるようにするのです——啓2:7. 参照、サムエル上3:1, 21. アモス3:7。
- H. とても実質的な意味で、主の臨在は彼の語りかけと一つです。彼が語るときはいつでも、わたしたちは自分の内側にある彼の臨在に気づきます。キリストの語りかけは、まさに命を与える霊の臨在です。
- I. わたしたちの内側の命を与える霊である内住のキリストの語りかけは清める水であって、新しい要素をわたしたちの中へと預け入れ、わたしたちの性質と性情の中の

古い要素に置き換わらせます。この新陳代謝的な清めは命における真正な内側の変化を引き起こしますが、それは性情の聖別と造り変えの実際です。

V. エペソ書第5章27節が啓示するのは、キリストの花嫁である召会が、最終的に「しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない」栄光の召会、神を表現する召会になるということです：

- A. 花嫁の美しさとは、召会の中へと造り込まれ、その後、召会を通して表現される、まさにキリストから生じます。わたしたちの唯一の美しさは、わたしたちの内側からキリストからキリストから輝き出るので—イザヤ60:1, 5前半、Ⅱコリント3:15-18。参照、出28:2。
- B. 花嫁の用意をするとは、「輝く清い細糸の亜麻布」の衣を着ることを意味し、その衣は「聖徒たちの義」です（啓19:8）。この細糸の亜麻布は花嫁の美しさです。
- C. 彼の婚姻の日に、花婿は花嫁の能力よりも彼女の美しさを大いに顧慮します。わたしたちの神である主イエスは、わたしたちの人性を通して表現される彼ご自身の美しさを第一に顧慮します。わたしたちは日々キリストによって美しくされる必要があります。それによって、わたしたちは彼の愛らしい花嫁として彼にささげられる用意をすることができます。
- D. わたしたちが時間を割いて、祈り読みによって、また彼の言葉を黙想することによって、彼の言葉の中で主の美しさを見つめるときはいつでも（エペソ6:17-18。詩119:15）、彼はわたしたちの美しさとなり、またわたしたちは彼によって美しくされて、彼の美の家となります。それは、彼もまた美しくされるためです（27:4。Ⅱコリント3:18。イザヤ60:7後半, 9後半, 13後半, 19後半, 21後半）。
- E. エペソ書第5章26節の言葉の中の水の洗いは、おもに、しみとしわを扱っています。しみは天然の命のものであり、しわは古さと関係があります。命の水だけが命の造り変えによって、そのような欠陥を新陳代謝的に洗い落とすことができます。
- F. 聖いとは、キリストを浸透させられ、キリストによって造り変えられることであり、傷がないとは、しみやしわがなく、わたしたちの古い人の天然の命によるものがないことです—参照、雅4:7。
- G. また、召会に「そのようなもの」が何もないとは、召会が「このような、そのような欠陥」を持たないことを意味します。神は召会をいかなる点についても何の悪口も言えない程度にまでもたらしめます—エペソ5:27。

VI. エペソ書第5章26節から27節は雅歌第8章13節から14節と合致しています。わたしたちが彼の再来の願いを持った彼の栄光の花嫁となる用意をするのは、わたしたちに対する主の語りかけによることを両方とも啓示しています—「園の中に住む者よ。わたしの仲間たちは、あなたの声に耳を傾けています。わたしにそれを聞かせてください。わが愛する方よ、急いでください。香料の山々の上のもしかや、若い雄鹿のようになってください」：

- A. 雅歌において、キリストを愛する探求者は、彼女の仲間たちが彼の声に耳を傾けている時、彼の園である信者たちの中に住んでいる彼に、彼の声を聞かせてくれるように求めています—8:13。参照、4:13-16。5:1。6:2：
  1. これが示しているのは、キリストの愛する者たちであるわたしたちが、わたした

ちの愛する方である彼のために行なう働きにおいて、わたしたちは彼との交わりを維持して、いつでも彼に聞く必要があるということです——ルカ10:38-42。

2. わたしたちの生活は主の言葉にかかっており、わたしたちの働きは彼の命令にかかっていきます（啓2:7. サムエル上3:9-10. 参照、イザヤ50:4-5. 出21:6）。主の言葉なしに、わたしたちはいかなる啓示も、光も、わたしたちの王であり（イザヤ6:1, 5）、わたしたちの主であり（Ⅱコリント5:14-15）、わたしたちのかしらであり（コロサイ2:19）、わたしたちの夫である（Ⅱコリント11:2）キリストを知るいかなる個人的な知識も、得ることはないでしょう。信者たちの命は完全に主の語りかけにかかっています（エペソ5:26-27）。
- B. この詩的な書の結びの言葉として、キリストの愛する者は彼女の愛する方が彼の復活の力（かもしかや若い雄鹿）の中で急いで戻って来て、全地を満たす彼の甘く美しい王国（香料の山々）を設立してくれるように祈ります——雅8:14. 啓11:15. ダニエル2:35 :
1. そのような祈りは、花婿であるキリストと花嫁である彼の愛する者たち間の新婚の愛における結合と交流を描写しています。これはキリストの愛する者であるヨハネの祈り（聖書の結びの言葉として）のようであり、それは神聖な愛におけるキリストと召会に関する神の永遠のエコノミーを啓示しています——啓22:20。
  2. 「主イエスよ、来たりませ！」は、聖書における最後の祈りです（20節）。全聖書は、祈りとして表現された主の到来に対する願いをもって結んでいます。
  3. 「主が来られる時、信仰は事実となり、賛美が祈りに置き換わります。愛は影のない完全なものとなり、わたしたちは罪のない領域で彼に仕えます。それは何という日でしょう！ 主イエスよ、早く来てください！」（ウオッチマン・ニー全集、第23巻、第6区分）。